

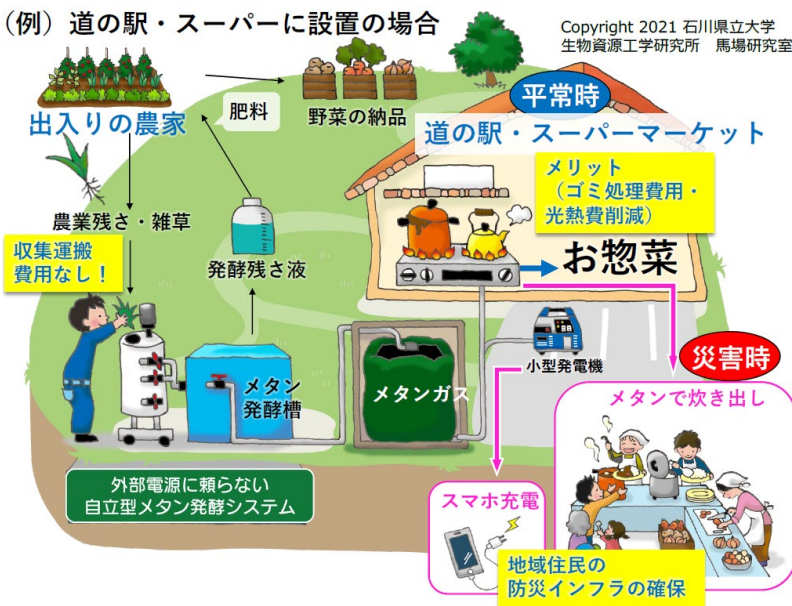
石川県立大学 (野々市市末松)

雑草や食品ゴミから都市ガスと電気を生み出す 「牛の胃の微生物を使用した再生可能メタン 発酵システム×防災ビール」

災害対応機能を備えた資源循環型発電システム



メタン発酵残さ液を肥料として
ビールホップを栽培し、
防災ビールとして発売



- 牛の胃の微生物の活用により、雑草・農業残さ・生ごみ等から、メタン(≒都市ガス)と電気を生産する、資源循環型発電システムです。
- 例えば、スーパーに設置すれば、毎日廃棄される野菜くずや残飯を、都市ガスと電気に変換。光熱費を削減でき、脱炭素にも貢献できます。また、停電や天候に左右されず、災害時にも防災施設として活用できます。
- 発酵残さは肥料として活用できます。大学では、ホップを栽培し、ビールを醸造・販売*することで、循環利用しています。*金澤ブルワリーに委託

【連絡先】 TEL : 076-227-7220 E-mail : ybaba@ishikawa-pu.ac.jp

【担当者】 馬場保徳